TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

ISSN 0385-7506 http://www.library.tohoku.ac.jp/

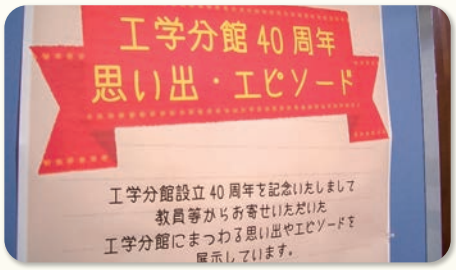
KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.43, No.3

2018. 12. 1

▶「工学分館の歴史と科学の40年」展

▶40周年ポスター



▶「思い出・エピソード」展ポスター

▶来館者からのお祝いメッセージ

工学分館は40周年を迎えました。

工学分館は、昭和53年(1978)4月1日に設置され、今年40周年を迎えました。工学部が創設されたのは大正8年(1919)。当時の工学部では学科ごとに図書室が置かれていました。その後工学部が片平から青葉山キャンパスに移転したことに伴い、昭和42年(1967)に工学部中央図書室が発足し、昭和53年(1978)には、より多様な資料・サービスを提供するため「附属図書館工学分館」となり、各学科の図書室を順次統合して現在に至っております。

秋 号

Contents

表 紙

工学分館は40周年を迎えました。

TOPICS

- 平成30年度企画展「西洋古典への扉 −The Door into Old and Rare Books」を開催しました。 2
- 日本心理学会大会でヴント文庫と古典機器を展示 3
- 東北地区西洋古典資料保存講習会を開催しました。 3
- 第11回グローバルセッション“Vivi Sendai! –Let's enjoy your life in Sendai!– ”を開催 4
- 附属図書館職員がPRRLA Annual Meeting 2018へ参加 4
- 工学分館40周年記念展示を行いました 5
- 「学コレ☆2018 BOOK SELECTION by Library Student Worker」を実施しました(工学分館) 6

SERIES

- 〈つながり〉の一冊 6
  『働かないアリに意義がある』経済学部3年 上田 夏実

INFORMATION

- 附属図書館プロモーションビデオを公開しました 7
- 「研究不正防止キャンペーン」の企画展示を開催 7
- 石川・大森/菊地研究室の研究紹介パネルを展示しました(工学分館) 8
- 古本まつりを開催しました(工学分館) 8
- 宇宙建築学サークル「TNL」の紹介展示を実施しています(工学分館) 8
- トイレリニューアル工事のご案内(工学分館) 8

東北大学附属図書館報 KIBOKO

本誌「木這子(きぼこ)」は、東北地方の方言で「こけし」を意味します。最寄りの附属図書館本館・各分館等で配布しておりますので、図書館の情報誌として、皆さんの学習や研究に、どうぞお役立てください。ご意見・ご感想は lib-som@grp.tohoku.ac.jp 宛にメールでお寄せください。

平成30年度企画展「西洋古典への扉 ―The Door into Old and Rare Books」を開催しました。

11月1日（木）から18日（日）まで、附属図書館多目的室にて企画展を開催しました。今年の企画展は従来とは趣向を変え、当館で初めて西洋の古典資料をテーマに選びました。

現在、私たちが手にしている本の姿は、いつごろ、どのようにしてできたのでしょうか。

江戸時代までの日本人にとって、「本」といえば和紙でできたもので、それらが何枚も糸で袋綴じされた姿が当たり前でした。手書きの本もありましたが、大量に売られ庶民が手にするようなものは、文字を版木に彫り、これらを墨で刷るといった方法で作られていました。

こうした時代に生きた日本人にとっては、今のような姿で大量に本が流通している様子など想像できなかったことでしょう。

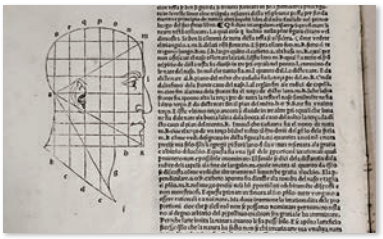
現代の本の姿は、15世紀半ば、ヨーロッパでグーテンベルクが活版印刷術を発明したことを起源にもちます。本展では、当館が所蔵する15～18世紀の資料を中心に、西洋の本の歴史と文化を追う趣向としました。展示の内容は、西洋の本の構造、装丁、紙、版面のレイアウト、扉や各ページに見られる特徴的な表記、フォントなど、本に付随する各テーマを掘り下げてご覧いただく仕掛けとしました。

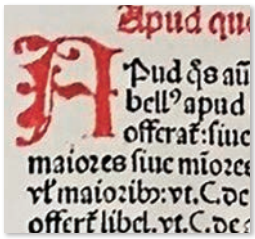
▶展示会場の様子

▶ポスター

▶展示した西洋の本

▶西洋の紙に残された製造者を示す透かし模様（ウォーターマーク）





▶使用されたフォントの形態と歴史

【せんだいメディアテークと協力企画】①活版印刷の動画紹介

会場では、せんだいメディアテーク製作による動画「活版印刷のすゝめ」を上映しました。6分程度の短いなかで、活版印刷の工程を紹介し、各工程で発する特徴的な音まで収録したものです。皆さん立ち止まって熱心にご覧になっていました。

▶会場で放映した動画

▶記念講演会の様子

【せんだいメディアテークと協力企画】②記念講演会

11月14日（水）の記念講演では、せんだいメディアテーク保管の活版印刷機の実物を館内にお借りし、活版印刷をテーマとした講演会とワークショップを開催しました。

本学の小川知幸助教（総合学術博物館）からは、「活版印刷の発明者・グーテンベルク」というタイトルで基調講演をいただきました。グーテンベルクの活版印刷術が真に発明したものは何か、写本から継承したものは何かについて解説をいただきました。

続くワークショップでは、ハリウコミュニケーションズ株式会社の菊地淳氏から、「金属活字組版の実際」というテーマで、昭和時代に実際に使っていた活版印刷機による実演により、金属活字や組版の手順についてお話をいただきました。

いずれも盛況で、記念講演会が終わってからも、会場に残って講師に集まる参加者が多く見受けられました。

この他、北青葉山分館と総合学術博物館による連携展示「黎明の自然科学」も理学部自然史標本館で開催され、訪れた見学者が熱心に見入っていました。

TOPICS

日本心理学会大会でヴント文庫と古典機器を展示

9月25日（火）～ 27日（木）に附属図書館多目的室を会場として、附属図書館が所蔵するヴント文庫と、文学研究科心理学研究室が保管する古典的な心理学実験機器を展示しました。これは仙台で開催された日本心理学会第82回大会の企画として、附属図書館、文学研究科協力のもとに実施されたものです。

ヴィルヘルム・ヴント（Wilhelm Wundt　1832-1920）は実験心理学の父とされ、ヴントがライプツィヒ大学で立ち上げた研究室は世界初の実験心理学の研究室であると言われています。ヴント没後に数千冊の蔵書が売り出され、ライプツィヒ大学や米国のエール大学、ハーバード大学も購入に乗り出していましたが、競合の末、東北帝国大学法文学部創設時（1922年）の心理学研究室初代教授であった千葉胤成が購入しました。購入費用は大学の予算だけではまかなえず、斎藤報恩会による支援を受けています。これが現在のヴント文庫です。今回の展示では購入当時のエピソードも紹介されました。

▶古典的心理学実験機器

▶ヴント文庫

各種の古典的な心理学実験機器は、法文学部創設時に購入したものをはじめ、実際に実験に使われてきた貴重なもので、来場者はみな熱心に見学されていました。３日間で226名の来場がありました。

東北地区西洋古典資料保存講習会を開催しました。

11月16日（金）、附属図書館を会場に、保存講習会を開催しました。学術資料は、現在に生かすだけでなく、未来にも継承し、未来の研究者にも提供し続けることが求められます。そのためには、電子化をはじめとする代替手段化を進めながら、同時に原資料の保存を強化していく必要があります。

今回の講習会は、講義・実演を通して、図書館職員が原資料の劣化や破損への対策を学び、東北地区の大学図書館間でそのノウハウを共有することを目指すものです。

▶当館の破損資料

当日は、まず一橋大学の鈴木宏子学術・図書部長より、本講習会がその一環でもある「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の概要説明と成果報告がありました。続いて東北大学から事例報告を行いました。

後半は、一橋大学からお招きした講師による講演と実演をいただきました。一橋大学社会科学古典資料センターは、国内有数の西洋古典資料と保存修復工房を有し、この分野で豊富な知識と経験の蓄積があります。毎年全国の図書館から職員を招いた保存講習会を行っており、今回は東北地区を会場にした初めての実演講習会という貴重な機会となりました。

▶熱心に聴講する各大学の参加者

最後は、当館の書庫見学ツアーと、開催中の企画展「西洋古典への扉」のギャラリートークに参加していただくことで、当館の古典資料を通じ、西洋古典資料の実際を目にする機会を設けました。参加者はいずれも興味深く見入っていました。

本講習会は、当館と一橋大学附属図書館・同社会科学古典資料センターが主催し、東北地区大学図書館協議会研修部会の協力を得ました。関係者にこの場を借りてお礼申し上げます。

第11回グローバルセッション“Vivi Sendai! –Let's enjoy your life in Sendai!–”を開催

10月24日（水）、附属図書館グローバル学習室を会場に、留学生コンシェルジュが企画・実施する国際交流イベント「グローバルセッション」を開催しました。

11回目となる今回は、10月入学の留学生向けに、仙台で学び暮らすための様々な情報を紹介しました。タイトルの“Vivi”とは、イタリア語で「生きる」の意味で、仙台で生き生きと学生生活を送ってもらいたいという思いが込められています。

セッションは日本語と英語の二部構成で行われ、9名のコンシェルジュが発表しました。

日本語の部では、仙台近郊の観光スポットや留学生割引のある文化施設の紹介のほか、医療機関の受診方法、ポイントカード活用方法といった生活に密着したトピックが紹介されました。

▶カードは日本の生活に不可欠と話すアンディさん（インドネシア出身）

▶発表した留学生コンシェルジュ

英語の部では、オススメのスーパーマーケットや仙台朝市、ハラール食材の入手方法、お気に入りの神社仏閣、仲間づくりのためのアドバイス等が紹介されました。

インド出身のトリシットさんは、発表の最後に“Enjoy Sendai while DATE MASAMUNE blesses you with his Darth Vader outfit!”というメッセージを送り、会場を盛り上げました。

当日は20名以上の参加があり、終了後も活発な質疑応答が繰り広げられるなど、関心の高さが伺えました。

今回の発表内容の一部は、附属図書館英語版ウェブサイトで公開しています。

附属図書館職員がPRRLA Annual Meeting 2018へ参加

附属図書館の職員2名が、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校で開催されたPRRLA Annual Meeting 2018へ参加し、本学の「震災ライブラリー」の取り組みについて英語で発表してきました。Pacific Rim Research Libraries Alliance＝PRRLAには環太平洋地域の42の大学図書館（日本からは東北大学と関西大学の2大学）が加盟しており、学術研究資料へのアクセス向上を目的として活動しています。

▶「震災ライブラリー」の取り組みについて発表

PRRLA Annual Meeting 2018は9月16日から19日まで4日間にわたって開催され、13大学から、執筆した論文を世界中の誰もが読めるようにする「オープンアクセス」や、大学図書館のコレクションをいつでもどこでも利用できる「資料の電子化」などをテーマとしたプレゼンテーションが行われました。本学の附属図書館が現在取り組んでいる課題に関連する発表も多く、今後提供していくサービスの参考になるものでした。附属図書館が発表した「震災ライブラリー」の取り組みについては、多くの環太平洋の国々で地震や津波による被害を度々受けていることから、高い関心が寄せられました。

附属図書館では、来年度以降も継続してPRRLAへ参画する予定です。

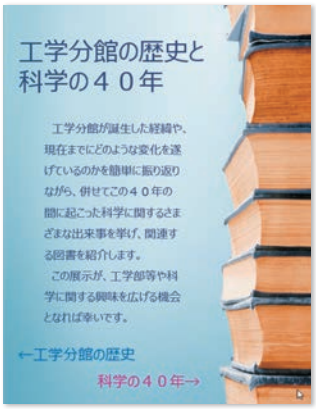
▶カリフォルニア大学バークレー校の図書館（左からDOE、MOFFITT、Engineering）

TOPICS

工学分館40周年記念展示を行いました

工学分館では、11月1日（木）～30日（金）、40周年記念展示を行いました。
「工学分館の歴史と科学の40年」展では、これまでの40年を振り返り、科学の主な出来事に関する図書約50冊を紹介しました。併せて、工学研究科等の教員と工学分館元職員のみなさまにお寄せいただいた、工学分館にまつわる思い出・エピソードのパネル展示を行いました。
期間中、たくさんのお祝いメッセージもいただき感謝しております。これからも利用するみなさまのお役に立てるようがんばります。よろしくお願いします！

「工学分館の歴史と科学の40年」展

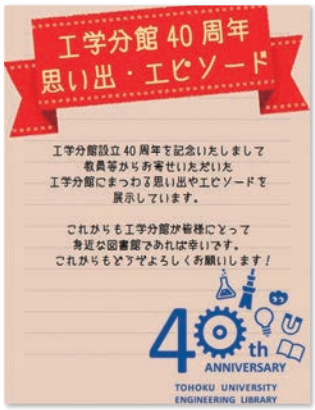


▶展示のポスター

▶工学分館の歴史パネル観覧の様子

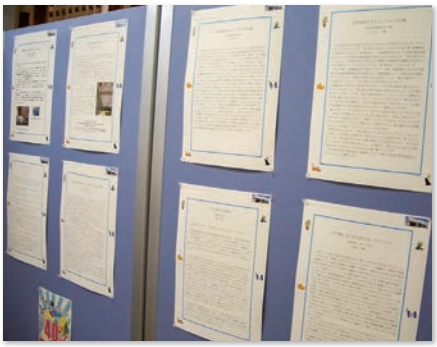
▶展示図書を手に取る利用者

「工学分館の思い出・エピソード」展



▶展示のポスター

▶展示の様子（エントランスホール）


▶お寄せいただいた思い出・エピソード

お祝いメッセージ

▶メッセージボード

- 40周年おめでとうございます!!
- 集中勉強できる工学分館の雰囲気が気に入っています。
- いつも新着図書を見るのが楽しみです。
- 興味のある本がたくさん置いてあるのでよく利用しています。
- Abelujo最高

▶メッセージカードを記入する利用者のみなさま

「学コレ☆2018 BOOK SELECTION by Library Student Worker」を実施しました（工学分館）

9月18日（火）～ 10月19日（金）、工学分館１階ホールで、夜間カウンターを担当する学生アルバイトが選書し、新たに購入した図書約50冊の展示を行いました。このイベントは今年で3年目となりますが、半数の図書に選者による手書きの内容説明POPが添えられ、毎回来館者の目を楽しませています。今回は装飾に流行のスタイルを取り入れ、普段とは違う雰囲気を作ってみました。次回は1月下旬開催予定です。どうぞお楽しみに。

▶展示コーナーの様子（1階ホール）

▶イラスト付きの力作POPも

SERIES

〈つながり〉の一冊　「働かないアリに意義がある」

働かないのに働きアリ?

経済学部3年　上田 夏実

シリーズ＜つながり＞の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていく＜リレーエッセイ＞です。

長谷川英祐著
メディアファクトリー新書
北青葉山分館
RA441/69
農学分館　481.71/5

アリというと、勤勉なイメージが強いのではないでしょうか。例えばイソップ物語の「アリとキリギリス」は、夏に遊び惚けているキリギリスと対比するようにアリの勤勉さが描かれており、怠け者を戒める話として有名です。しかし、このイメージとは裏腹に、「働かない働きアリ」が存在すると筆者は述べています。

働かないアリについては、主に本書の第一章及び第二章に記されています。働かないアリを持つコロニーは、普通に考えると存続が難しそうですが、実験では異なった結果を示します。働かないアリを持つコロニーは、そうでないコロニーと比較して長期的な存続率が高いのです。これは、疲労や不測の事態への適応度が高いことを示しているのだと筆者は考えています。

第三章では真社会性生物の利他行動の根拠、第四章ではアリの社会にもフリーライダーがいること、第五章では生物が群れをつくるメリットデメリットについて述べています。

私が特に興味を持ったのは、第四章のフリーライダーについてです。フリーライダーとは、社会コストを充分に負担せずに社会システムがもたらす利益だけを搾取する人のことを言います。アリのフリーライダーには二種類あり、一つは同じ種のコロニーの労働力を利用して生き延びる「チーター」と呼ばれる種類、もう一つはほかの種のコロニーの労働力を利用して生き延びる「社会寄生」と呼ばれる種類があります。後者ではなんと、別の巣の女王アリを殺して、その匂いをまとったアリがその巣の女王のふりをして自分のワーカーたちを育てさせることがあるそうです。人間の社会で起こっているフリーライダー問題が、アリの社会でも生じているというのは、なんだかおもしろいと思いませんか。

本書ではこのように、ハチやアリなどの真社会性生物の世界を、わかりやすく紹介しています。はじめに筆者が述べているようにくだけた語り口で書かれおり、また各章の最後にはまとめも整理されているので、非常に読みやすく理解しやすい構成となっています。

人間の社会では、多様な人々が相互に関係を持っていますが、ムシの社会でもそれは同じです。自身の経験と重ね合わせて共感したり、あるいは違った部分に驚いたりすることも多く、読んでいて非常に楽しい内容となっています。皆さんにぜひ読んでいただきたい一冊です。

INFORMATION

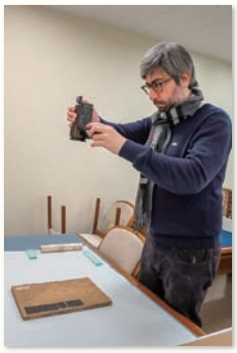
附属図書館プロモーションビデオを公開しました

留学生コンシェルジュ制作の、附属図書館プロモーションビデオの続編ができました。館内の施設を中心に紹介した前作に対し、今回は図書館で所蔵する様々な資料に焦点を当てた二部構成となっています。

Part1は、“The Interesting Books of Tohoku University Library”のタイトルで、1号館の多様な学習・研究エリアで提供している学習用資料やレファレンスブック、文系分野の専門資料、グローバルラーニングを支援する多言語資料などを紹介しています。

Part2は、“Old and Rare Collection of Tohoku University Library”のタイトルで、東北大学が世界に誇るコレクションの数々を紹介しています。

狩野文庫の中から歌川豊国画の『東海道五十三次』、江戸時代に発達した日本独自の数学である「和算」資料から『塵劫記』、西洋古典からトマス・ホッブズ著の『リヴァイアサン（Leviathan）』の3種類の初版などを紹介しています。



▶真剣な眼差しで撮影するダヴィデさん

▶美しい色彩や質感が分かるようアップで撮影

撮影・編集は前作と同様、イタリア出身の文学研究科大学院生ダヴィデ・ビッティさんです。留学生ならではの視点でとらえた当館の映像をぜひご覧ください。

動画は英語テロップ付きでYouTubeの留学生コンシェルジュ公式チャンネル（Intl Student Concierge Tohoku University Library）から公開しています。

公式チャンネルには図書館利用案内動画もあります。

YouTube へのリンク

Part1
https://www.youtube.com/watch?v=TiSphK3DrFM

Part2
https://www.youtube.com/watch?v=3ITBtK7MnK0

「研究不正防止キャンペーン」の企画展示を開催

2018年秋に、附属図書館では「研究不正防止キャンペーン」の企画展示を行いました。

附属図書館では従来から、情報リテラシーのスキル取得の支援のために、様々な文献検索ツールの講習会や文献検索のテキスト作成、レポート作成に関する講義などに取り組んできました。一方で、研究不正についても取り組んではどうか、という声も最近いただくようになりました。他人の意見の引用もルールを守らなければ盗用になってしまう、ということは、レポート作成の講義などでも繰り返し注意を促してきたところです。今回の企画では、さらに一歩踏み込んで、「研究不正」全般をテーマにしました。一口に研究不正と言っても、盗用・捏造・改竄などの様々な形があります。まず、どのような行為が研究不正にあたるのかをパネルで簡単に解説し、さらに関連する図書の展示を行いました。図書は①研究不正に関わる事件を扱ったもの　②正しく論文・レポートを書くための方法をあつかったもの、の二つの切り口から選びました。キャンペーン参加は附属図書館の他、医学分館・北青葉山分館・工学分館・農学分館・理学研究科物理学専攻図書室・金属材料研究所図書室・電気通信研究所図書室で、展示期間は館・室により違いがありますが、本館は10月2日（火）から25日（木）でした。

▶附属図書館での展示

▶金属材料研究所図書室での展示

INFORMATION

石川・大森/菊地研究室の研究紹介パネルを展示しました（工学分館）

10月15日（月）から31日（水）にかけて、工学研究科ファインメカニクス専攻・医工学研究科医工学専攻の石川・大森/菊地研究室の研究紹介展示を行いました。「蚊がゴクゴクとゴックンを飲み分ける仕組み」や「デッドエンドを回避する微生物の仕組み」など、生物が持つ興味深い性質を、力学を基盤として解き明かした成果をパネルで紹介しました。

学内で行われている研究の楽しさを知っていただくための機会として、他の研究室の研究成果についても今後紹介したいと考えています。

▶展示の様子（エントランスホール）

古本まつりを開催しました（工学分館）

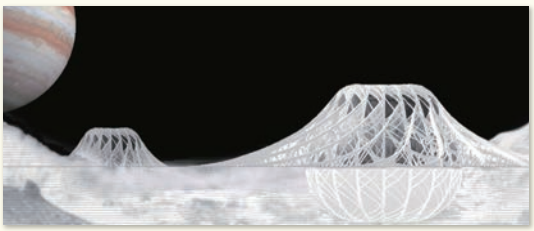
12月3日（月）～10日（月）に、保存期間の過ぎたエントランスホールの一般雑誌や、重複等の理由で除却された図書を無償で提供する古本まつりを開催しました。初日から大勢の方にお立ち寄りいただき、人気の雑誌から次々と引き取られていきました。

▶開始直前のコーナー（1階ホール）

宇宙建築学サークル「TNL」の紹介展示を実施しています（工学分館）

「宇宙で暮らすを実現する」をコンセプトに活動している宇宙建築学サークル「TNL」の活動紹介展示を、12月5日（水）～27日（木）まで開催しています。過去5回開催された作品コンペ「宇宙建築賞」を受賞した建築作品ポスターの他、メンバーおすすめの本など関連図書を紹介しています。ぜひご覧ください。

▶「宇宙建築」のイメージ図



▶「宇宙建築」作品例

トイレリニューアル工事のご案内（工学分館）

工学分館の旧館1階、2階にあるトイレのリニューアル工事を実施しています。1階の男性用トイレ、車椅子対応トイレと2階のトイレは、11月19日（月）より新しくなりました。また1階の女性用トイレは、12月末頃には利用を再開できるよう、工事を進めているところです。

トイレの使用不可や騒音の発生により、利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、気持ちよく利用できるトイレとするために、ご理解とご協力をお願いいたします。

Tohoku Univ. Library
@hagi_no_suke
東北大学附属図書館のツイッター公式アカウントです。東北大学生の学習とキャンパスライフのためにつぶやきます。
https://twilog.org/hagi_no_suke
Sendai, Miyagi, JAPAN

KIBOKO 木遣子
ISSN 0385-7506
Bulletin of the Tohoku University Library Vol.43, No.3
（通巻160号）
2018. 12. 1
編集・発行
東北大学附属図書館報「木遣子」第43巻第3号
［発行日］2018年12月1日 ［発 行］東北大学附属図書館
［発行人］加藤 晃一（広報委員会委員長）

東北大学附属図書館
〒980-8576 仙台市青葉区川内27－1
TEL:022-795-5911 FAX:022-795-5909